

2. 勝山城跡

山頂は、標高五七一メートル、周囲三・五キロメートルの独立した山で、「お城山」とも呼ばれている。この勝山城には、現在なお、曲輪・堀・石垣・土塁など多くの遺構が認められ、当時の威容が偲ばれる。勝山城跡の裾を南方から東流し北西に流れる桂川はまさに、天然の堀をなしていた。



勝山城跡登り口

谷村町駅前からこの桂川に架かるつり橋を渡り、川棚の集落に入ると、まもなくY字路に至る。これを右に進むと、勝山城の登り口である。登り口南側の一段下がった水田は外堀跡である。登り口には現在、勝山城趾全図が掲載された説明板が設置されている。ここから、小道を一五〇メートル程登ると、右手は崖下がえぐられ左手

は幅一五メートル程堀状に築んだところがある。これは城の西側の守りを固めるために築かれた空堀跡で、空堀はここから西側山腹を半周して、本丸下の北側尾根まで続く。空堀の下、山すそ付近には、県其自然環境保全条例の指定を受けているアラカシ林がある。空堀から一六〇メートル程登ると川棚棚見張台と呼ばれる小さな平坦地に至る。この川棚見張台は、城西側の監視、押えとして築かれたものである。

ここからしばらく進むと急に道が険しくなる。これを通ると、道幅が広がり、左手には一段高くなった平坦地が認められる。ここは「三の丸」で、前方には「二の丸」、「本丸」が望える。この「三の丸」から帯曲輪が「二の丸」、東側の曲輪に連絡されている。南側の帯曲輪は、登山道で一部分断されているが、「三の丸」からNHKのテレビ塔にかけて、最も良好に当時の姿を留めている。北側の帯曲輪は、現在、段をなしているが、当時はゆるやかなスロープで「二の丸」に連絡され、「二の丸」から、本丸下を北から東に巡らされている。この帯曲輪は、本丸下を一周巡り城内の兵力の移動等のために築かれたものである。「三の丸」から「く」の字に折れ曲った登山道を登ると左手に「二の丸」が広がり、登山道正面には、き

れいに面取りされた石垣が、土中から顔を覗かせている。これは近世城郭に用いられた打込みはぎ積によるものである。この付近は、城内で最も威容の誇示が計られている場所で、現在なお、石垣の多くは土中に埋もれている。

山頂の平坦地は「本丸」跡で、東西約八〇メートル南北約五五メートルの広さを有する。この北隅から、西隅の東照権現社付近にかけて、若干高くなっている。これは、「本丸」に巡らされた土塁の跡である。江戸時代秋元氏が城の谷村城及び城下町を描いた「甲州谷村城絵図」には、本丸東側に城門、西隅に建物が記載されているが、現在、その面影は知る由もない。

「本丸」跡から東側に下ると、平坦地に至る。ここは秋元氏が城時に鉄砲の火薬を保管した始硝蔵があったと伝えられる場所である。現在は途中で途切れているが、ここから小道を下り、藪を掻き分けて進むと、源生見張台と呼ばれる小さな平坦地に至る。

「本丸」の裏側には、野づら積みによる石垣が顔を覗かせている。また、この付近にはヤブキが群生している。



本丸付近南面の石垣

北東に張り出した尾根づたいに小道を下ると、右手道端に一段の石積みが続く、石積みを過ぎると空堀への下り道と合流する。この付近は平坦地であり、下谷から四日市場方面の眺望はすばらしい。この平坦地の先端で道は急に落ち込み、また、幅が狭くなる。道の両側は、約六メートル幅で切り落されている。ここは堅堀跡で、道は土橋跡である。堅堀を過ぎると大沢見張台と呼ばれる平坦地に至る。ここは独立した小さな曲輪で、主曲輪と帯曲輪よりなっている。また、ここは江戸時代に

將軍家献上用のお茶蔵（お茶の貯蔵所）があったと伝えられている。このお茶蔵は、宇治より江戸に向う途中、茶壺の一部（一説によると大部分）が収められ、富士おろしにあて、土用を過ぎた十月頃に江戸に運んだといわれる。お茶壺がこの勝山城に収められるようになったのは、四代將軍家綱の承応元年（一六五二）からで、元文三年（一七三八）まで続いたといわれている。

空堀への小道を下ると、急に道幅が広がる。この辺の空堀跡には上から崩れた石垣の残骸が軋がっている。空堀のそばには土盛りされた土累が続く。

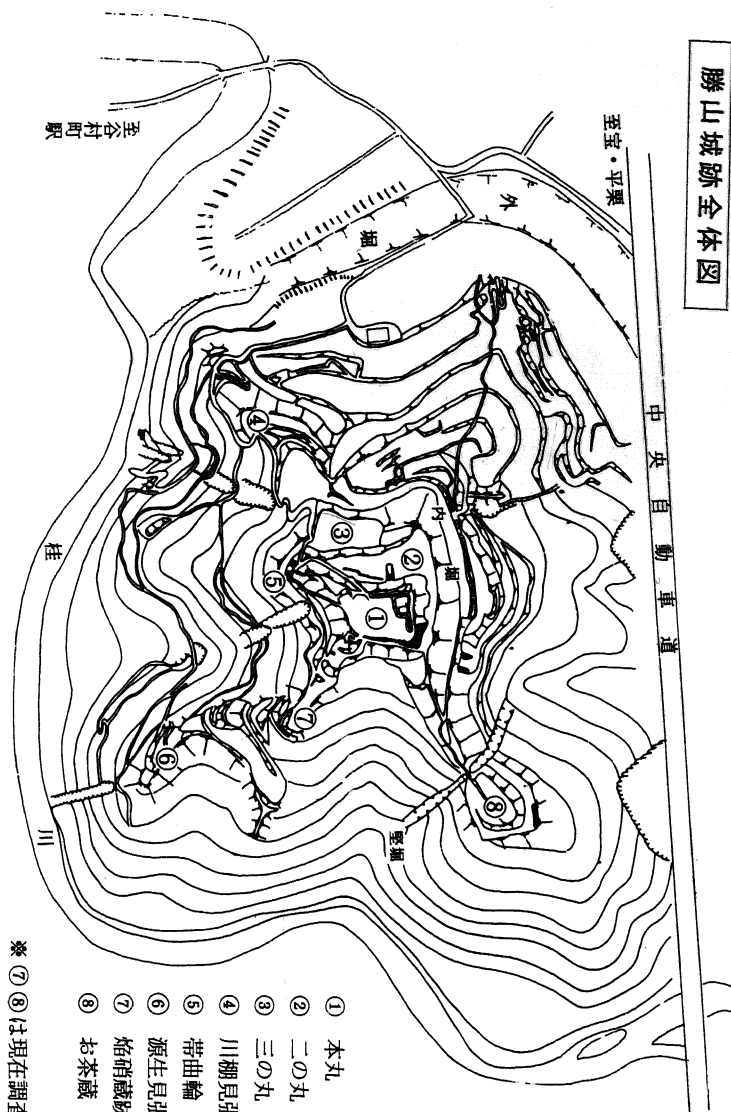
この勝山城は、谷村城の要害城（非常の場合たてこもる城）として築城されたもので、谷村城とは桂川に架かる内橋で連絡されている。

勝山城は、『甲斐国志』によると、浅野長政の家老浅野左衛門氏重によって、文禄三年（一五九四）に築城されたと記されているが、最近の研究によって、小山田越中守信有が中津森から谷村に館を移した時、要害城として勝山城築城に着手したと考えられるようになった。

勝山八幡神社

桂川の清流を眺めながら城南橋を渡って坂道を登る

勝山城跡全体図



- ① 本丸
- ② 二の丸
- ③ 三の丸
- ④ 川棚見張台
- ⑤ 帯曲輪
- ⑥ 源生見張台
- ⑦ 始硝蔵跡
- ⑧ お茶蔵

※ ⑦ ⑧ は現在調査中



本丸跡 現在東照宮が祀られている

と左側に八幡神社に行く山道がある。祭神は菅田別命・足仲津彦命・氣長足姫命で、はじめ越中守が外敵防護、領内鎮護の鎮守として勝山の山頂に正八幡宮の社殿を造営し祀った。

文禄三年（一五九四年）浅野氏重が勝山に城を修復

するとき神祠を西南の八窪山の山頂に移した。いまは川棚の産土神として八窪山の麓に祀られている。また、本丸跡の市有地については、昭和六三年三月十五日市の文化財として指定された。

甘露山正観寺跡
川棚の集落に入り右に行くと城山、左に行くと曹洞宗正観寺跡がある。「お茶の水」という小池があり、もと城内の飲用水として使用した。この小池は五〇年ほど前に廃寺となった正観寺の甘露池のことで現在も湧出し川棚地区で利用されている。